

石田 芳生 議員

就労や災害地の避難など
障害者を取り残さない社会を

障害者福祉について

石田 障害のある方の就労支援、職場の障害者理解についてどのように取り組むのか。

市長 障害のある方やその保護者の不安は重く受け止める。特に就労については仲介を支援し、就労面談会を通じて相互理解を深める取り組みをしていく。また、令和3年度、たかはし障害者総合支援センターとたかはし障害者就業・生活支援センターを一カ所に統合して、密接な連携を図る。

石田 防災や災害時の避難場所や方法は、障害者に十分周知できているのか。

市長 災害時には、自立支援協議会の協力を得て、障害のある方と連絡を取っている。

石田 消防団や町内会など、障害

者を取り巻く人が、その情報を知ることができなければいけないのではないか。

市長 個人情報が含まれているので、障害者本人や家族の理解を得ることができれば、前もって対応することができ。今後、民生委員とも情報共有を図りたい。

市内の県立高等学校について

石田 市内中学校卒業生数は年々減少している。今後の県立高校再編整備にどう対応するのか。

教育長 人生で一番多感な時期を、高梁市で過ごすことは大切なことである。県立高校ではあるが、市としてもしっかりと支援していく。地域学習や市内小中学校との交流を通じて、さまざまな体験をしてもらい、それを中学生の市内高校進学につなげていきたい。

石部 誠 議員

備中高梁駅ホーム内に公衆トイレを

高齢者や障害者に
配慮した接種体制を

石部 新型コロナウイルス接種は、高齢者や障害のある方など、会場に行けない方に配慮すべき。
健康福祉部長 ワクチン接種は取り扱い上さまざまな制約があるが、医療機関などと検討し調整を図りたい。

石部 ワクチン接種後のタクシー

補助は、希望者に対し市内のタクシー台数では、送迎不可能で制度として成り立たないのでは。

健康福祉部長 タクシー台数に限りがあり利用できない人が出てくる可能性はある。運転免許を持つていない方や運転に不安のある方に御利用いただく。

トイレ
まちなかトイレ

石部 観光地型のトイレは洋式化など整備が進んでいるが、体育館やコミュニティ型のトイレの整備は遅れているのではないか。

副市長 経済効果もあり地域振興に貢献するトイレが先行するが、コミュニティ型のトイレをおろそかにはしない。

石部 数千万円もかけたトイレ整備でなく、十数万円の改修改善や清掃を。また、備中高梁駅ホームにはトイレがなくて不便。ホームまたは東西連絡道にトイレを設置できないか。

産業経済部長 緊急時は駅社員用トイレの借用は可能。電車車両のトイレも利用してほしい。今後のトイレ整備の計画はない。

三村 靖行 議員

ワクチン接種タクシー助成は
往復無料にすべき小・中学校の
いじめ問題対策について

三村 いじめを防止する対策や取り組み状況を聞く。

教育長 児童生徒が安心・安全に学校生活を送るための対策としてアンケート調査を行い、早期発見に努めている。教育委員会では大学教授、警察、児童相談所、PTAの代表者で年2回委員会を開催して防止に努めている。

三村 解決しているのか。

教育長 ほとんど解決しているが一部、複雑な背景の問題もあり、長引いていることもある。被害児童を守ると共に、加害児童に対しても、学校だけでなく教育委員会、警察、弁護士にも相談し、考

えられる対応を整理して共通理解のもと解決に向け取り組んでいる。

新型コロナウイルスワクチン
接種について

三村 高齢者の接種医療機関へのタクシー補助を全額にできないか
健康福祉部長 個人の支援になるので全額は無理である。市内タクシーにも限りがあり予約が殺到することも考え復路補助とした。

老朽空家対策について

三村 景観保全にも悪い老朽空家は、早急に対応すべき。

市民生活部長 個人の資産でもあり適切な管理が必要。解決に向けて所有者へ働きかけている。

森 和之 議員

買い物難民は市街地でも増えている

防災対策について

森 河川しゅんせつと樹木伐採は継続的に行うべきではないか。

政策監 樹木伐採は岡山県河道内整備実施計画の中で2024年まで県が実施していく。市としても成羽川を含めた高梁川本流、支流について、土砂の堆積箇所を明記して掘削を要望する。

森 完成するまで30年も掛かる河川整備計画だが、どのように住民に情報を発信するのか。

市長 一日でも早い着手を国・県に対して要望している。国・県・中国電力との協議内容や整備の進捗状況を、住民の方にしっかりと説明し情報も発信していく。

学童保育について

森 定員数の見直しや施設改修が必要ではないか。

市長 施設改修というハード面に關しては、対応が必要であればしていく。並行して、支援員の確保を行っていく必要があると認識している。

公共交通について

森 バスだけにとらわれない、市街地の公共交通網の整備が必要ではないか。

市民生活部長 平成22年10月から1年間、市内循環バスの南回りの実証運行を行った。当時と事情が大きく変わっており、今後どういった移動手段を確保していくかは、全国の取り組み事例を研究して、交通事業者と協議をしていく。